

中学校

平成 15 年 度

# 教育研究員研究報告書

技 術 ・ 家 庭  
( 家 庭 分 野 )

東京都教職員研修センター

平成15年度

教育研究員名簿

中学校 技術・家庭（家庭分野）

地区	学校名	氏名
文京区	第十中学校	浦野 政子
江東区	砂町中学校	熊谷 照代
大田区	糀谷中学校	中田 佳代
世田谷区	山崎中学校	沖山 弘美
立川市	立川第二中学校	島貫 淳子
多摩市	聖ヶ丘中学校	渡邊 朋子

世話人 副世話人

担当 東京都教職員研修センター 指導主事 新庄 恵子  
指導主事 平松 功治

## 目 次

研究主題設定の理由	2
<b>研究の内容</b>	
1 「生活をよりよくしようとする能力と態度」を育てるために	2
2 研究の構想	3
3 生徒の実態調査（家庭生活アンケート）	4
4 指導計画・評価計画	
A (1)中学生の栄養と食事	6
A (2)食品の選択と日常食の調理の基礎	7
A (3)衣服の選択と手入れ	8
A (4)室内環境の整備と住まい方	9
5 実践事例	
事例1 バランスのとれた食生活を考える 『和食の良さを知る - 食生活に一汁三菜を取り入れよう - 』	10
事例2 調べ学習を通して食品の選択を考える 『加工食品の種類と特徴』	12
事例3 衣服の選択と手入れ 『パッチワークでつくるコースター』	15
事例4 住まいを清潔にしよう 『住まいの汚れの落とし方』	21
研究の成果と今後の課題	23

## 研究主題

**実践的・体験的な学習活動を通して、生活をよりよくしようとする能力と態度を育てる指導と評価の工夫**

### 研究主題設定の理由

既成の品々が氾濫している今日、欲しいものの多くはお金を支払って手に入れることができる。そのため、子どもたちは既製品を選択したり扱うことはできるが、製品の構造や製作過程はもちろん、作成に必要な材料・技術などにはほとんど興味がなく、知る必要性も感じていないようにみられる。また、少子化、核家族化及び家事作業の機械化などで生活の自立につながる様々な生活体験が減り、さらに家族関係が希薄になっている現状の中で、学習した内容を実際の生活の中で生かす力を育てることは、技術・家庭科の大きな目標である。

そこで本研究では、学習のねらいに応じた様々な実践的・体験的な学習活動を工夫し、生徒が習得した知識や技術、家庭の機能についての理解を基に、各自の生活の課題を見付け、解決する方法を考えて実践しようとする能力と態度を育成させたいと考えた。

また、評価については、評価のための評価に終わらせることなく、評価の結果を踏まえ後の指導を改善するとともに、生徒自身の学習意欲を喚起し、学習の改善に生かすことができる指導と評価を目指し、本研究主題を設定した。

### 研究の内容

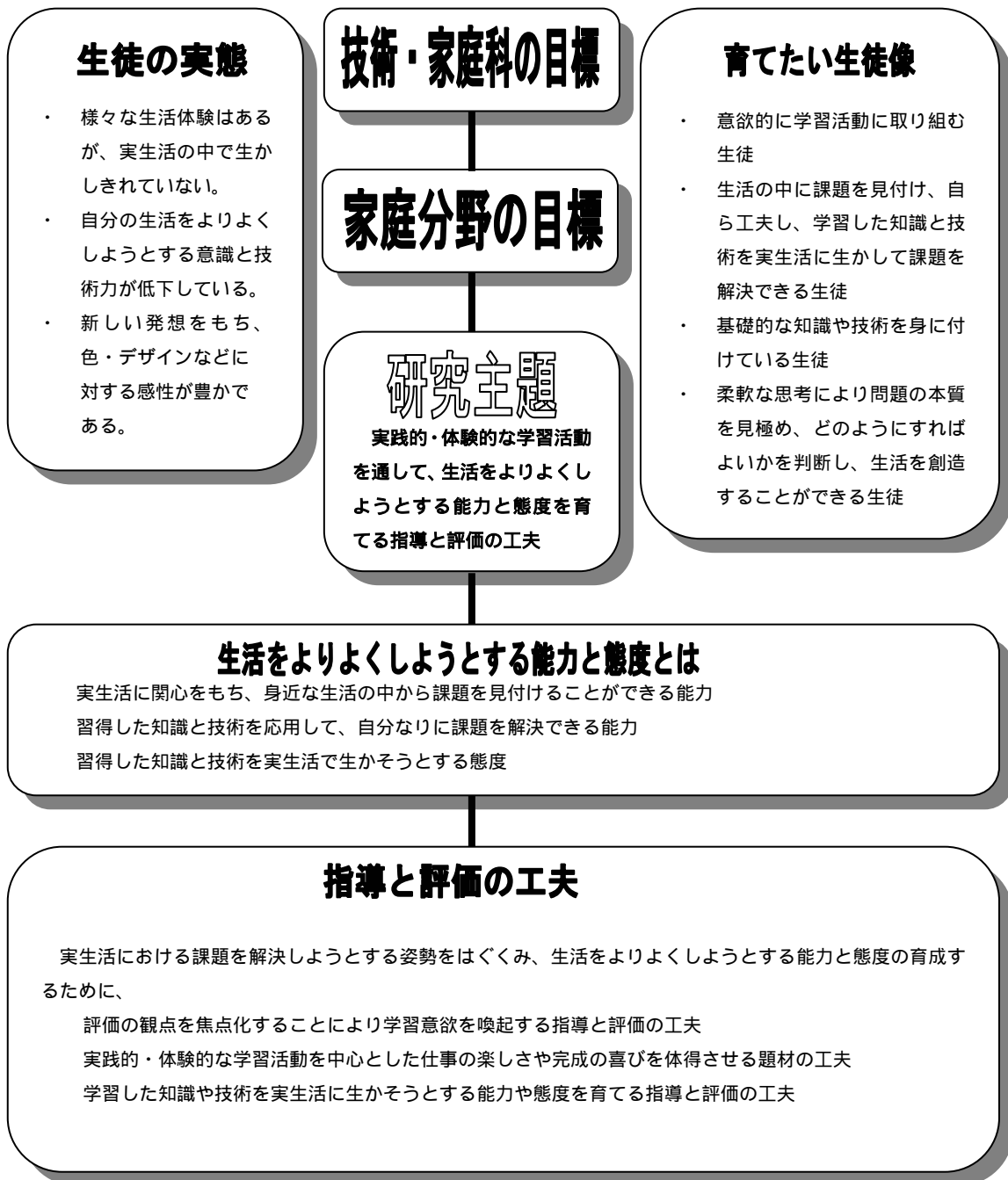
#### 1 「生活をよりよくしようとする能力と態度」を育てるために

本研究では、生徒自らが身近な生活の中から課題を見付け、習得した知識と技術を応用して、自分なりに課題を解決することができるようにする力を身に付けさせたいと考えた。

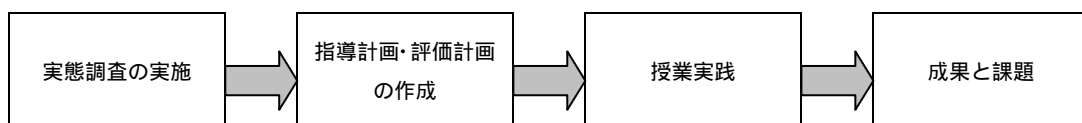
技術・家庭科における基礎・基本を踏まえ、生徒が自立して主体的な生活を営むために、実践的・体験的な活動を取り入れ、仕事の楽しさや完成の喜びを体験させることに研究の重点をおいた。家庭分野の実習したり体験したりする活動には、衣生活では「手入れや補修」、「簡単な衣服の製作」、食生活では「調理実習」や「食品についての実験」、住生活では「住まいの掃除」、「室内環境の調査」などがある。これらを自分の生活に結び付けて学習することが家庭分野における問題解決的な学習であり、生活の自立につながっていく。そこで、実践的・体験的な学習活動を中心とした題材の工夫や指導と評価の工夫は、実生活における課題を解決しようとする姿勢をはぐくみ、生活をよりよくしようとする能力と態度の向上につながるのではないかと考え、「生活の自立と衣食住」に焦点をあて研究を進めた。

また、いわゆる絶対評価が導入され、今日的課題となった評価に関しては、生徒の自己評価を充実させ、習得した知識と技術を自ら確認させることで、生活における課題を見いだしたり、自己評価を手がかりに教師が個に応じた援助を行うことで、生徒の「生活をよりよくしようとする能力と態度」を育てることを目指した。

## 2 研究の構想



## 研究実践



### 3 生徒の実態調査（家庭生活アンケート）

研究を進めるにあたり、生活をよりよくしようとする能力と態度を育てるためには、その基盤となる生徒の生活体験の有無を知り実態を把握することが必要と考え、家庭生活に関してアンケート調査を行った。

- (1) 調査対象 教育研究員所属校 6校 各学年 1クラスずつ抽出  
第1学年 197名 第2学年 190名 第3学年 195名 計 582名
- (2) 調査時期 平成15年7月
- (3) 調査結果 右ページ参照
- (4) 集計の結果より

#### <食生活>

一人で食事を作ることができる生徒が約7割いて、食べることへの関心の高さが表れている。食品の選択に関しては、表示や賞味期限を見て選ぶことはできているが、鮮度を見分けるといような経験を必要とすることに関しては、「はい」と答えている割合が少ない。

#### <衣生活>

アイロンがけをしたことのある生徒が約8割、コディネイトを考えることのできる生徒、上履きを自分で洗っている生徒、洗濯機の使い方がわかる生徒が約7割と高い数字を示している。それに比べ小学校で学習しているはずのボタン付けができる生徒の割合が少ない。

#### <住生活>

8割以上の生徒が自宅で大掃除を行っていると考えているが、日常の清掃分担をされ習慣的に掃除を行っている生徒は半数に満たない。ゴミの分別に対する意識は高く、8割以上の生徒が分別を実行している。

#### <その他>

祖父母や幼い子どもと同居している生徒は3割に満たない。9割近い生徒が地域の人とあいさつを交わすことができているが、地域活動を手伝ったことのある生徒は半数に満たない。空き缶・ペットボトルのリサイクルは7割近くの生徒が実行している。また、7割以上の生徒がコンピュータを使って作業ができると回答した。

#### (5) 考察

「～したことがありますか」という経験を問う項目には「はい」の回答率が高い。これに対して、継続した仕事として習慣化されていることを問う項目には「はい」の回答率が低くなっている。これは、授業で実生活につながる体験はしたことがあるものの、習慣化までにはいたっていないためと考えられる。生活をよりよくしようとする能力と態度は、家族の一員として、家庭の仕事に興味・関心をもち日常の家庭の仕事に主体的にかかわろうとする姿になって表れると考えられる。

このような実態調査の結果を踏まえて、実践的・体験的な学習活動の充実を図り、学習内容を生活に生かそうとする意欲と態度を育てる研究を進めることとした。

調査結果

はい  いいえ  単位(%)

<食生活>	<衣生活>						
(1) 一人で食事作りができますか <table border="1" style="margin-left: 40px;"> <tr> <td style="width: 50px; text-align: center;">70.6</td> <td style="width: 50px; text-align: center;">29.4</td> </tr> </table>	70.6	29.4	(1) 洗濯機の使い方が分りますか <table border="1" style="margin-left: 40px;"> <tr> <td style="width: 50px; text-align: center;">69.2</td> <td style="width: 50px; text-align: center;">30.8</td> </tr> </table>	69.2	30.8		
70.6	29.4						
69.2	30.8						
(2) 仕事の分担をしていますか <table border="1" style="margin-left: 40px;"> <tr> <td style="width: 50px; text-align: center;">55.6</td> <td style="width: 50px; text-align: center;">44.4</td> </tr> </table>	55.6	44.4	(2) アイロンがけをしたことがありますか <table border="1" style="margin-left: 40px;"> <tr> <td style="width: 50px; text-align: center;">82.0</td> <td style="width: 50px; text-align: center;">18.0</td> </tr> </table>	82.0	18.0		
55.6	44.4						
82.0	18.0						
(3) 食事の買い物に一人で行くことがありますか <table border="1" style="margin-left: 40px;"> <tr> <td style="width: 50px; text-align: center;">61.3</td> <td style="width: 50px; text-align: center;">38.7</td> </tr> </table>	61.3	38.7	(3) 上履きは自分で洗っていますか <table border="1" style="margin-left: 40px;"> <tr> <td style="width: 50px; text-align: center;">70.6</td> <td style="width: 50px; text-align: center;">29.4</td> </tr> </table>	70.6	29.4		
61.3	38.7						
70.6	29.4						
(4) 鮮度の良い野菜や果物を選ぶことができますか <table border="1" style="margin-left: 40px;"> <tr> <td style="width: 50px; text-align: center;">48.5</td> <td style="width: 50px; text-align: center;">51.5</td> </tr> </table>	48.5	51.5	(4) ボタン付けはできますか <table border="1" style="margin-left: 40px;"> <tr> <td style="width: 50px; text-align: center;">63.7</td> <td style="width: 50px; text-align: center;">36.3</td> </tr> </table>	63.7	36.3		
48.5	51.5						
63.7	36.3						
(5) 加工食品を選ぶとき、表示や賞味期限を確認しますか <table border="1" style="margin-left: 40px;"> <tr> <td style="width: 50px; text-align: center;">70.1</td> <td style="width: 50px; text-align: center;">29.9</td> </tr> </table>	70.1	29.9	(5) TPOに合わせたコ-ディネイトができますか <table border="1" style="margin-left: 40px;"> <tr> <td style="width: 50px; text-align: center;">71.6</td> <td style="width: 50px; text-align: center;">28.4</td> </tr> </table>	71.6	28.4		
70.1	29.9						
71.6	28.4						
<住生活>	<その他>						
(1) 家の掃除で分担されている場所がありますか <table border="1" style="margin-left: 40px;"> <tr> <td style="width: 50px; text-align: center;">44.2</td> <td style="width: 50px; text-align: center;">55.8</td> </tr> </table>	44.2	55.8	(1) 同居の家族に祖父母や小学校に入学する前の幼い子どもがいますか <table border="1" style="margin-left: 40px;"> <tr> <td style="width: 50px; text-align: center;">27.7</td> <td style="width: 50px; text-align: center;">72.3</td> </tr> </table> <p>(1)で「はい」の人にききます。祖父母や幼い子どもの世話を何かしていますか  <table border="1" style="margin-left: 40px;"> <tr> <td style="width: 50px; text-align: center;">49.4</td> <td style="width: 50px; text-align: center;">50.6</td> </tr> </table> </p>	27.7	72.3	49.4	50.6
44.2	55.8						
27.7	72.3						
49.4	50.6						
(2) ゴミは分別して捨てていますか <table border="1" style="margin-left: 40px;"> <tr> <td style="width: 50px; text-align: center;">85.2</td> <td style="width: 50px; text-align: center;">14.8</td> </tr> </table>	85.2	14.8	(2) 隣近所の人とあいさつを交わすことがありますか <table border="1" style="margin-left: 40px;"> <tr> <td style="width: 50px; text-align: center;">87.1</td> <td style="width: 50px; text-align: center;">12.9</td> </tr> </table>	87.1	12.9		
85.2	14.8						
87.1	12.9						
(3) 家の大掃除を手伝っていますか <table border="1" style="margin-left: 40px;"> <tr> <td style="width: 50px; text-align: center;">84.4</td> <td style="width: 50px; text-align: center;">15.6</td> </tr> </table>	84.4	15.6	(3) 地域の活動を手伝ったことはありますか <table border="1" style="margin-left: 40px;"> <tr> <td style="width: 50px; text-align: center;">48.3</td> <td style="width: 50px; text-align: center;">51.7</td> </tr> </table>	48.3	51.7		
84.4	15.6						
48.3	51.7						
(4) 自分の身の回りの整理整頓をしていますか <table border="1" style="margin-left: 40px;"> <tr> <td style="width: 50px; text-align: center;">59.6</td> <td style="width: 50px; text-align: center;">40.4</td> </tr> </table>	59.6	40.4	(4) 空き缶やペットボトルをリサイクルしていますか <table border="1" style="margin-left: 40px;"> <tr> <td style="width: 50px; text-align: center;">65.9</td> <td style="width: 50px; text-align: center;">34.1</td> </tr> </table>	65.9	34.1		
59.6	40.4						
65.9	34.1						
(5) 電気・水道の節約に努めていますか <table border="1" style="margin-left: 40px;"> <tr> <td style="width: 50px; text-align: center;">55.0</td> <td style="width: 50px; text-align: center;">45.0</td> </tr> </table>	55.0	45.0	(5) コンピユ-タを使って作業ができますか <table border="1" style="margin-left: 40px;"> <tr> <td style="width: 50px; text-align: center;">71.5</td> <td style="width: 50px; text-align: center;">28.5</td> </tr> </table>	71.5	28.5		
55.0	45.0						
71.5	28.5						

#### 4 指導計画・評価計画

「A 生活の自立と衣食住(1)～(4)」について、実践的・体験的な学習活動を中心とした題材を設定して指導計画を作成した。また、毎時間の観点を焦点化させるとともに、全体を通して4つの観点をバランスよく評価することができるように、評価計画を作成した。

項目	指導目標	時数	指導内容	評価規準	観 点				評価を判断する具体例 B(おおむね満足できる)
					関	工	技	知	
A (1)  中学生の栄養と食事	生活の中で食事が果たす役割や、健康と食事とのかかわりについて知る	1	食事の役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事の役割を理解しようとしている</li> <li>・自分の食生活を振り返り、点検することができる</li> </ul>	○				<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事の役割についてワークシートに記入することができる</li> <li>・1日の食事をもれなく記入し、自分の食生活についてまとめることができる</li> </ul>
		2	健康と食事	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康と食事のかかわりについて関心をもっている</li> <li>・健康と食事のかかわりについて理解している</li> <li>・食生活点検などから課題を見付けその解決を目指して食事の取り方について考え工夫している</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活点検と食事点検を関連させて考察することができる</li> <li>・健康を支える3本の柱についてまとめることができる</li> <li>・自分の食生活点検から課題を見付け、改善する項目をあげることができる</li> </ul>
	栄養素の種類と働きを知り、中学生の時期の栄養の特徴について考える	3	食品と栄養素のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食品に含まれる栄養素について関心をもって学習活動に取り組もうとしている</li> <li>・食品成分表の見方を理解し、活用することができる</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>・食品を栄養素の特徴ごとにワークシートにまとめることができる</li> <li>・食品成分表の数値をみて、身近な食品のエネルギー値や栄養素を調べ記入することができる</li> </ul>
		4	栄養素の働きと水の働き	<ul style="list-style-type: none"> <li>・五大栄養素の働きと水の働きについて理解している</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>・五大栄養素と水の働きについてワークシートに記入することができる</li> </ul>
	食品の栄養的特質を知り、中学生に必要な栄養を満たす1日分の献立を考える	5	中学生の栄養の特徴  栄養所要量	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生の時期の栄養の特徴について理解している</li> <li>・栄養所要量について理解している</li> <li>・中学生の時期の栄養の特徴に関心をもち、自分の食事とかかわらせて考えようとしている</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>・成人に比べエネルギー・たんぱく質・カルシウムの所要量が多いことを説明することができる</li> <li>・栄養所要量の数値が、年齢、性別、活動量によって異なることを記入することができる</li> <li>・自分の食生活に生かそうとする手だてを記入することができる</li> </ul>
		6	6つの基礎食品群と食品群別摂取量の目安	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食品を栄養的特質により食品群に分類することができる</li> <li>・1日に必要な食品群別摂取量の目安を理解し、工夫して食品を組み合わせていることができる</li> </ul>		○			<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な食品を6つの基礎食品群に分類することができる</li> <li>・食品群別摂取量の目安と概量をワークシートに記入することができる</li> </ul>
		7	バランスのとれた食生活を考える	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食品群別摂取量の概量を把握して中学生の1日分の献立を考えることができる</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>・食品群別摂取量の概量を活用し費用、好み、3食のバランスを考えて献立を作成することができる</li> </ul>
		<b>事例1</b>	8	<b>和食の良さを知る</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一汁三菜の栄養の特徴と配膳の仕方について説明できる</li> <li>・一汁三菜の食膳形式を日常の食生活に応用させ、工夫して献立を考えることができる</li> </ul>				



項目	指導目標	時数	指導内容	評価規準	観 点				評価を判断する具体例 B（おおむね満足できる）
					関	工	技	知	
A (2) 食 品 の 選 択 と 日 常 食 の 調 理 の 基 礎	日常多く用いられている食品の品質を見分け、用途に応じて適切に選択することができる  <b>事例 2</b>	1	生鮮食品について ・生鮮食品の特徴	・生鮮食品について理解している ・生鮮食品の良否を見分けることができる					・食品の出盛り期を説明できる ・鮮度、品質から生鮮食品の良否を見分け、ワークシートに記入することができる
		2	<b>加工食品について</b> ・加工食品の種類と特徴	・加工食品の種類や特徴について理解している					・食品の種類や特徴について説明できる
		3	・加工食品の表示と食品添加物	・身近な加工食品の表示や食品添加物を調べることができる					・加工食品の表示・食品添加物の意味を調べ、ワークシートにまとめることができる
		4	目的にあった食品の選択	・食品の適切な選択・利用を工夫して考えることができる					・自分の生活スタイルに応じた加工食品の選択と利用についてまとめることができる
	食品の衛生的な取り扱い方、調理器具の正しい扱い方を知り、日常食の調理に関心をもち簡単な日常食の調理ができる	5	調理実習計画  野菜の特性と調理方法	・協力して、計画を立てようとしている  ・野菜の調理上の性質を踏まえ適切な調理方法を考えることができる					・話し合いに協力し、効率よく調理できるよう計画が立てられている ・野菜の調理上の性質を生かした調理方法について説明できる
		6	野菜を使った日常食の簡単な調理と用具の使い方	・安全に気を付け、調理に取り組もうとしている					・ワークシートに実習の記録が記入されている ・材料に応じて適切に切ることができる
		7		・計画に沿って野菜を使った調理をすることができる					
		8	調理実習計画  肉の特性と調理方法	・衛生に気を付けて、計画を立てようとしている  ・肉の調理上の性質を踏まえ適切な調理方法を考えることができる					・用具や材料の衛生的な取り扱い方について計画表に記入されている ・肉の調理上の性質を生かした調理方法について説明できる
		9	肉を使った日常食の簡単な調理	・計画に沿って肉を使った調理をすることができる					・見た目よく盛りつけられている ・実習した調理を、家庭で生かすことについて記入されている
		10		・実習を振り返り、実習した調理を家庭で生かそうとしている					
		11	魚を使った日常食の簡単な調理 ・献立作成 調理実習計画	・魚の調理上の性質や調理の要点を踏まえ適切な調理方法を考えることができる ・魚を使って1食分の献立を考えることができる					・魚の調理上の性質を生かした調理方法について説明できる ・魚を主菜に取り入れた1食分の献立を作成している
		12	魚を使った日常食の簡単な調理	・計画に沿って魚を使った調理をすることができる					・調理にあった下ごしらえができる ・実習した調理を、家庭で生かすことについて記入されている
		13		・実習を振り返り、実習した調理を家庭で生かそうとしている					
		14	よりよい食生活を目指して ・エコクッキング	・食生活の学習を通して、食生活における自己の課題を発見しようとしている ・自分の課題の解決方法を考えることができる					・今までの学習を振り返り、自分の食生活の課題をワークシートに記入することができる ・食生活にかかわる基礎的な知識を生かし、自分の課題への解決方法についてまとめることができる

項目	指導目標	時数	指導内容	評価規準	観 点				評価を判断する具体例 B ( おおむね満足できる)
					関	工	技	知	
A (3) 衣服の 選択と 手入れ	衣生活と社会生活とのかかわりを考え、目的に応じた着用や、個性を生かす着用を工夫できる	1	衣生活の課題の設定	・自分の衣生活についての課題を設定できる					・自分の衣生活についての課題を設定できる
		2	日常着の活用 ・服装における色の研究 ・コーディネート	・服装における色についての比較検討ができる					・各色について比較検討したものを、記録することができる
		3	・衣服の役割 ・TPO に応じた着用 ・流行と個性	・個性を生かし、TPO に応じた着用の工夫ができる ・衣服の役割と TPO について理解できている					・TPO を押さえた上で、着用の工夫が図で表現できる ・衣服の役割と TPO の意味を説明できる
	日常着の計画的な活用を考え、適切な選択ができる	4	衣服の計画的な活用 ・衣服の適切な購入	・衣服計画の必要性と購入のポイントについて理解している  ・標準服などの表示について調べることができる					・衣服計画の必要性や、購入のポイント、衣服の表示の意味を説明できる ・標準服などの表示を調べ、ワークシートに記入することができる
	衣服材料に応じた日常着の手入れと補修ができる	5	日常着の手入れ ・布の種類と特性 ・繊維の種類と特徴	・繊維や布の観察を行うことができる ・布や繊維の種類と特性について理解している					・観察結果が記録できている  ・主な布や繊維の特徴について説明できる
				・衣服の手入れの必要性 ・しみ抜き	・衣服の手入れの必要性としみ抜きの仕方について理解している  ・衣服のしみ抜きが適切にできる				
		7	作品製作「パッチワークでつくるコースター」 ・なみ縫い(試し作り) ・布選びとしるし付け	・補修の目的と布地に適した方法を理解している					・布の種類やほころび箇所に適した補修の方法を説明できる
		8	・フォーパッチ (表布の縫製)	・布の配色について、自分なりに工夫することができる					・配色の工夫について説明できる
		9	・表布、中綿、裏布の縫い合わせ	・安全で能率よく、作品の製作ができる(しるし付け、なみ縫い)					・縫い幅と針目が適切で、しるしどおりに縫うことができる
		10	・図案描き、落としキルト						
		11	・ボタン付け(試し作り)	・安全で能率よく、作品の製作ができる(ボタン付け、仕上げ)					・正しくボタン付けができています
		12	・飾りボタンと仕上げ	・作品の製作を通して、衣生活をよりよくしようとしている					・ワークシートに、作品製作と、習得した技能を生活の中で生かすことについての記入ができる
		13 14	衣生活と環境 衣生活の課題の解決	・資源や環境に配慮した衣服の有効利用の仕方について考えることができる ・自分の衣生活の課題について調べまとめることができる					・衣服の有効な利用方法について工夫例を挙げるができる  ・自分の衣生活の課題についてレポートにまとめることができる
		15	発表 まとめ	・衣生活をよりよくしようとしている					・学習したことを実生活に生かすことについて、ワークシートに記入できている

事例3

項目	指導目標	時数	指導内容	評価規準	観 点				評価を判断する具体例 B (おおむね満足できる)	
					関	工	技	知		
室内環境の整備と住まい方	家族が住まう空間としての住居の機能を知る	1	住まいのはたらきと役割 ・気候風土と住まい 住生活の課題の設定	・住まいのはたらきと役割について理解している ・自分の住生活についての課題を設定できる					・住まいのはたらきと役割について説明できる ・自分の住生活についての課題を設定できる	
		2	家族と住まい ・生活行為と住空間	・生活行為と必要な住空間について理解している ・家族とのかかわりを踏まえて、様々な住まい方について考えることができる					・生活行為と必要な住空間について説明できる ・想定した家族のそれぞれの立場から考えてワークシートに記入できる	
		3	住まい方の工夫	・住まい方を工夫することで、住まいがより快適になることを理解し、目的にあった工夫ができる					・工夫した住空間を図で表現することができる	
	事例4	安全で快適な室内環境の整え方を知り、よりよい住まい方の工夫ができる	4	室内環境の整え方 ・室内気候の調節 ・騒音防止	・室内気候の調節の仕方、住まいの健康に及ぼす影響について理解している ・騒音の防ぎ方の工夫について考えることができる					・室内気候の意味とそれぞれの調節の仕方と健康に及ぼす影響について具体的に説明できる ・実験結果を記録にとり、その結果から騒音防止の効果的な方法について考察することができる
			5	住まいの安全性 ・家庭内事故 ・安全対策	・幼児や高齢者の立場を体験し、家庭内で起きる事故の原因を調べることができる ・安全な住まい方の工夫を考えることができる					・幼児や高齢者の疑似体験から家庭内で起きる事故の原因を考察することができる ・安全対策の具体例を挙げることができる
			6	住まいの掃除 ・実施計画	・汚れに応じた手入れの方法を理解している ・掃除の実施計画を立てることができる					・汚れの種類にあった手入れの方法を調べ記入できている ・掃除の実施計画を立てることができる
			7	・ <b>住まいの汚れの落とし方</b>	・計画に沿って、担当場所の掃除に取り組んでいる ・汚れに応じて掃除の仕方を工夫できる					・実施結果についての記入ができている ・ワークシートに掃除の仕方の工夫についての記入ができている
			8	これからの住まい	・健康で快適な住環境づくりの現状について理解している ・環境に配慮した住まい方の工夫ができる					・バリアフリー、ユニバーサルデザインの意味の説明ができる ・環境に配慮した住まい方の工夫例を挙げることができる
			9	住生活の課題の解決  まとめ	・自分の住生活の課題と解決策についてまとめることができる					・自分の住生活の課題についてレポートにまとめられている ・実生活に生かす手だてが書かれている

## 5 実践事例

A(1)～(4)の各内容について、生徒の日常生活とのかかわりを重視し、実践的・体験的な学習活動を中心とした題材の工夫を行った。また、「努力を要する」状況の生徒を把握し、「おおむね満足できる」状況になるような具体的な援助の方法を展開の中に位置付けた。さらに、振り返りカード(自己評価表)を用いて、学習した内容を実生活に結びつけるなどの評価の工夫を行った。

事例 1	バランスのとれた食生活を考える 和食の良さを知る－食生活に一汁三菜を取り入れよう－
------	--

### 題材設定の理由

日本の伝統的な食文化である「一汁三菜」は、栄養のバランスが優れていること、魚や野菜などの旬の素材を生かし季節感があるなど、私たちの食生活にとって様々な利点がある。私たちは、いつでも食べ物を手に入れることができる飽食の時代に生活しているが、一方では食生活の偏りが生活習慣病の一因にもなっている。そこで日本の食文化の良さを見直し、実際に私たちの食生活に「一汁三菜」を取り入れることで、身近な生活の中から課題を見つけ、その解決を目指し、生活をよりよくしようとする能力と態度を身に付けさせたいと考えた。

本題材は、バランスのとれた食事を具体的な献立で理解できるように、前時で作成した献立を実際に生徒が各家庭で調理し、その結果を授業に活用するという実生活に結びつける工夫を行った。また、習得した知識や技術を基に、他の生徒の献立を評価する相互評価を取り入れた。相互評価を通し、互いの献立について課題を見つけ、その解決のための具体的なアドバイスを行わせる。このような指導や評価の工夫を行うことで、習得した知識や技術を自らの生活に生かそうとする態度が育成できると考え、本題材を設定した。

### 生活をよりよくしようとする能力や態度を育てる手だて

- 1 食生活について関心をもたせるために、献立を考え、実際に家庭で調理させる。
- 2 栄養のバランスのよい一汁三菜の視点から、他の生徒の献立の課題や改善点を考えさせる。
- 3 自己の食生活の課題を考えさせ、習得した知識や技術を実生活に生かそうとする態度を育てる。

### 本時の学習

#### 1 指導内容と評価規準

指導内容	評価規準	観 点				評価を判断する具体例 (Bおおむね満足できる)
		関	工	技	知	
和食の良さを知る	・一汁三菜の栄養の特徴と配膳の仕方について説明できる(評価) ・一汁三菜の食膳形式を日常の食生活に応用させ、工夫して献立を考えることができる(評価)					・一汁三菜の栄養の特徴と配膳図について記入することができる ・他の生徒の献立を検討し、改善点を記入することができる

2 展開

		生徒の学習活動	教師の指導・援助・評価 〔努力を要する生徒への援助〕	準備
導入	本時の学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>献立作成の要点について復習する</li> <li>本時の学習内容について知る（一汁三菜を基本に他の生徒の献立をバランスのよい献立に工夫して立てることができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>献立作成の要点を説明する</li> </ul>	レポート
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">評価を行う具体物・場面 ・方法等を表す</div>			
展開	評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>一汁三菜の栄養の特徴と配膳の仕方について説明を受け、ワークシートにまとめる</li> <li>相互評価カード、ワークシートの記入の仕方の説明を受け、他の生徒の献立を評価する</li> </ul> <p>&lt; 相互評価の流れ &gt;</p> <p>ア 生徒が任意にペアを組み、献立作成のポイント、苦勞した点、材料の使用量等を発表し合う</p> <p>イ 使用した材料を6つの基礎食品群に分類し、栄養バランスをみる</p> <p>ウ 一汁三菜を基本に献立の改善策をアドバイザーとして提案する（バランスのよい献立と判断した場合はその理由を説明する）</p> <p>ペアを組み直し、相互評価を繰り返す</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>評価 ワークシートの記入状況 〔まとめができない生徒には具体的な例を挙げ、再度ポイントをしぼった説明をする〕</li> </ul>	ワークシート
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">献立内容の発表</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">6つの基礎食品群の分類</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">改善策の提案</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">評価</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">相互評価の繰り返し</div>		<ul style="list-style-type: none"> <li>評価 机間指導による観察 〔6つの基礎食品群に分類した結果を確認させ、改善策を1つ例示し、それを基に他の類似した改善策を考えさせる〕</li> </ul>	相互評価カード
まとめ	本時のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>一汁三菜に基づいた、バランスのとれた献立を考えることができたか振り返りカードにまとめる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>相互評価を自己の食生活に生かすよう助言する</li> <li>レポート、ワークシート、振り返りカード等を回収する</li> </ul>	振り返りカード

考察

本実践例では作成した献立について相互評価を取り入れ、複数の献立の課題とその課題を解決する具体的な改善策を考えさせることができた。ワークシートの「わたしから一言」欄で、他の生徒の献立に対し感想を記入させたが、肯定的なものが多かった。また、「栄養バランスを考えたもう一品を提案」欄では、栄養チェックをした結果を受けた改善献立を提案していた。他の生徒の献立を真剣に評価することで、6つの基礎食品群やバランスのとれた献立の理解が深まり、習得した知識や技術を、自己の食生活の課題解決に生かそうとする意欲を高めることができた。

< 生徒のワークシートから >

「わたしから一言」より

- ・見た目がきれいでおいしそう！
- ・2群を中心につくるといいと思う
- ・栄養のバランスはバッチしだと思うよ
- ・おいしそうだね、わたしもホットサンド大好き

「栄養バランスを考えたもう一品を提案」より

- ・野菜でサラダ！！！！
- ・海藻サラダを作ると2群がとれるからいいと思う
- ・ポテトサラダ+みそ汁
- ・野菜がないからサラダor野菜スティック

事例 2	調べ学習を通して食品の選択を考える 加工食品の種類と特徴
------	---------------------------------

### 題材設定の理由

生徒の家庭生活に関する実態調査から一人で食事を作ることが「できる」と答えている生徒が多く、「食べること」が身近な関心事であることがわかった。しかし、よりよく作ることに密接にかかわりのある「野菜や果物の鮮度を見分ける」という食品を選択する項目については「できる」と答えている割合が少ない実態も明らかになった。そのような調査結果から、生徒に、実生活に関心をもち、自己の食事に関する課題やその解決方法を見いだすなど、習得した知識を実生活で生かそうとする態度を育てたいと考えた。

みそ汁、スープ等の加工食品は多くの種類があり、品質調べや手作り品との比較により、加工食品の特徴について学ぶことに適している。また、生徒の食生活に身近で食べる機会が多く、比較的調理しやすいという特徴もある。そこで、自らの食生活に目を向けさせ、自己の生活の課題を見いだすのにふさわしいと考え、本題材を設定した。

### 生活をよりよくしようとする能力と態度を育てる手だて

- 1 生徒の身近にある食品を利用することにより関心をもたせる。
- 2 栄養士の専門的な立場からのアドバイスを聞く場を設定することにより、加工食品の特徴について理解を深め、食品の利用法について考えさせる。
- 3 発問を工夫し、自分の生活場面を想像し生活と結び付けて考えさせ、実生活に生かしているようにする態度を育てる。

### 本時の学習

#### 1 指導内容と評価規準

指導内容	評価規準	観 点				評価を判断する具体例 (Bおおむね満足できる)
		関	工	技	知	
加工食品について ・加工食品の種類と特徴	・加工食品の種類や特徴について理解している(評価 )					・食品の種類や特徴について説明できる

#### 2 展開

		生徒の学習活動	教師の指導・援助・評価 〔努力を要する生徒への援助〕	準備
導 入	本時の 学習目標	・加工食品の種類と特徴について学習することを 知る	・前時の学習内容である生鮮食品の特徴を確認し、本時の学習の流れを説明する	

展 開		<ul style="list-style-type: none"> <li>加工食品の種類と保存の原理について知る</li> <li>加工食品の具体例をワークシートに挙げる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>加工食品の種類と保存の原理について説明する</li> </ul>	ワークシート	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>加工食品の1つであるみそ汁・スープを比較する観点を挙げる</li> <li>グループ活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>加工食品の種類を書けない生徒には、具体的な例を1つ示し、それに類似するものや関連するものを考え記入させる</li> <li>観点が5つ以上、出なかった場合は、観点を提示する</li> </ul>	ワークシート	ワークシート
	<ul style="list-style-type: none"> <li>ア 観点を5つ決め試食結果を発表する</li> <li>イ 手作り品と比較しながら市販品の特徴（利点・問題点）を話し合う</li> <li>ウ 発表用カードに記入する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>観点ごとに市販品を比較しワークシートに記入させる</li> <li>話し合いがうまくいっていないグループは司会に進め方を助言する</li> <li>発表用カードに見やすく記入させる</li> <li>聞き手にわかりやすく発表させる</li> </ul>	発表用カード	マジック	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>発表用カードを黒板に貼り、グループで話し合った内容を発表する</li> <li>栄養士（ゲストティーチャー）から、日常生活における加工食品の利用の仕方についてアドバイスを受ける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>栄養士を紹介する</li> <li>静かにメモをとりながら聞かせる</li> </ul>	発表用カード	マジック	
ま と め		<ul style="list-style-type: none"> <li>本時に挙げた具体的な加工食品のそれぞれの特徴についてワークシートにまとめる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>黒板に貼ってある発表用カードや栄養士の資料に書かれた内容を確認しながら、記入するよう助言する</li> </ul>	発表用カード	マジック
		<ul style="list-style-type: none"> <li>本時を振り返りカードの記入により、自己評価するとともに、授業で学んだ加工食品の利用を実生活生かす視点を記入する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシート、振り返りカードを回収する</li> </ul>	発表用カード	マジック

## 考察

### 1 題材について

生徒の身近にある食品を利用することで、学習内容を自分の生活と結び付けて主体的に学

習しようとする意識付けになり、関心をもたせることにつながった。

## 2 グループの話し合い及び発表について

加工食品を5つの観点からグループで話し合った際に、初め「くさい」「まあまあ」「ふつう」などのあいまいな表現が多く、より客観的に表現するよう助言を行った。また、教師が司会役に進行方法の適切なアドバイスを与えることで、グループの話し合いが活発になった。話し合いを通し、友達の考えに触れたり、自分では気づかない食品の種類や特徴が発見でき、学習を深めることができた。



< 発表準備の様子 ( 発表用カード ) >

## 3 ゲストティーチャーについて

食物について専門性をもっている自校の栄養士を授業にゲストティーチャーとしてして招き、加工食品の日常における具体的な利用法について栄養面からのアドバイスをしてもらった。学習の後に記入させた振り返りカードには、「栄養士さんにお話していただいてよくわかった」「栄養士さんのアドバイスを生活に生かしたい」というような内容が記入されていた。生徒の日常生活における食生活の実態を熟知している自校の栄養士という専門家からのアドバイスは生徒の心に響き、知識を深め、生活をよりよくしようとする態度につながった。

## 4 評価について

授業中のどの場面でどの観点を評価するのか、ポイントを絞り、評価を行うことによって、生徒一人一人の学びの様子を丁寧に把握することができた。また、学習の最後に振り返りカード

を記入させ自己評価を行ったことで各自が授業の終わりに学習内容を確認することができた。振り返りカードについては、短時間で効率的に記入できるよう、項目の内容や分量を工夫していく必要がある。

### 振り返りカード < 加工食品の種類と特徴 >

月 日 ( )

#### 評価の記入方法

よくできた・わかった

だいたいできた・わかった

あまりできなかった・わからなかった

評価項目		
関心 意欲 態度	身近な食品に関心をもてたか	
	班員と協力して、加工食品の特徴についてまとめることができたか	
知識 理解	加工食品の種類と保存の原理について理解できたか	
	加工食品の利点と問題点について理解できたか	
	栄養士さんの加工食品のアドバイスは理解できたか	
授業で学んだことをどのように生活に生かそうと考えていますか		

#### < 生徒の記入から >

加工食品だけで食べるのではなく、栄養のバランスを考えて他の物と一緒に食べようと思った。

食品添加物には注意して、日頃から品質表示を見ようになりたい。

加工食品や手作り食品の利点や問題点がよくわかったので、両方をうまく利用していきたい。

栄養士さんのアドバイスを家でも参考にしていきたい。



<b>事例3</b>	衣服の選択と手入れ  パッチワークでつくるコースター
------------	----------------------------------

### 題材設定の理由

自分らしい着方を考えることは、日常生活において大切なことである。生活様式の変化から、現代は自分にあった既製服を選んで購入することが多く、自らの衣服を製作することは少なくなった。しかし、洗濯、アイロンかけ、ボタン付けなどの簡単な衣服の手入れは、毎日繰り返される大事な家庭の仕事である。ところが、衣服の手入れを生徒が家庭で行う機会は、安価な既製服が出回ったり、家事作業の機械化が進んだりして確実に減っている。このような生活状況の中で生徒に自分の衣服の着方を工夫する能力や、衣服の手入れに関心をもち、家族と協力してよりよい衣生活を目指す実践的な態度を育てる必要があると考える。

本題材の「パッチワークでつくるコースター」は、実習の過程で多くの知識や技術を習得し、それを応用して作品を製作する実践的な題材である。製作を通し、自己の課題が明らかになり、課題の解決に向けた手だてを考え、適切な教師の支援のもと課題を解決し、作品の完成を目指す。また、実習の動機付けとして作品を「家族へのプレゼント」に位置付けることで、より実生活を意識させ、習得した知識と技術を実生活で生かそうとする意欲を高める。このような、実践的・体験的な学習活動を通し、作品を完成する喜びを味わわせることで、生活をよりよくしようとする態度が育つのではないかと考え、本題材を設定した。

### 生活をよりよくしようとする能力や態度を育てる手だて

- 1 作品製作において自己評価・相互評価を行うことを通し、自己の課題を明らかにする。
- 2 習得した知識と技術を応用して、作品完成に向け課題を解決しようとする意欲を高める。
- 3 振り返りカードを用い、学習した知識や技術を自己の生活と結び付けて考えさせ、実生活に生かしていこうとする態度を育てる。

### 本時の学習

#### 1 指導内容と評価規準

指導内容	評価規準	観 点				評価を判断する具体例 (Bおおむね満足できる)
		関	工	技	知	
<b>作品製作「パッチワークでつくるコースター」</b> <b>・ボタン付け(試し作り)</b>	・安全で能率よく、作品の製作ができる(ボタン付け)( <b>評価</b> ) ・作品の製作を通して、衣生活をよりよくしようとしている( <b>評価</b> )					・正しくボタン付けができています  ・ワークシートに、作品製作と、習得した技能を生活の中で生かすことについての記入ができる

2 展開

		生徒の学習活動	教師の指導・援助・評価 〔努力を要する生徒への援助〕	準備
導入	本時の 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手縫いやボタン付けの技能の習得が、実生活に生かせることを知る</li> <li>・ボタン付けの確認（小学校時の復習）</li> <li>・次回の作品作りの課題につかがることを知る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時のねらいを書いた用紙を黒板に貼っておき、課題を明確にさせる</li> <li>・実際にボタンの取れたワイシャツ・標準服を見せる</li> <li>・ボタンが取れそうな段階で付け直すことが大切であることを伝える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ボタン</li> <li>標準服</li> <li>ワイシャツ</li> <li>板書用シート</li> </ul>
	試し作り ボタン付け  評価          試し作り ボタン付け  評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品の入った袋、裁縫セットに入っているものを確認する</li> <li>・<b>試し作り（ブルーの布）</b></li> </ul> <p>&lt;作業の手順&gt;</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ア 糸を30cmくらいに切る</p> <p>イ 針に糸を通す</p> <p>ウ 1本取りで玉結びする</p> <p>エ ボタンを付ける</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己評価・相互評価をする</li> <li>・正しいボタン付けを確認し、理解できる</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>試し作り（ピンクの布）</b></li> </ul> <p>&lt;作業の手順&gt;</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>試し作り のア～エを再度行う <b>(発展的課題)</b>正確にボタンが付けられた生徒は、2個目をつける</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>評価 机間指導による観察</b></li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>作業ア～エでつまずいている生徒に個別指導を行う 複数の生徒がつまずづいている箇所は、試し作り の前に行う、全体説明の際のポイントにする</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コンピュータで、チェックポイントを提示する</li> <li>・正しい作業方法を教材提示装置で手元を拡大して教師が作業してみせる</li> <li>・上手な作品を紹介する</li> <li>・<b>評価 机間指導による観察及び試し作り の作品</b></li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>作業でつまずいている生徒に個別指導を行う 作品を回収した際にチェックし、課題のある生徒には授業終了時にアドバイスカードを渡す</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・試し作り の作品の回収</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>板書用シート</li> <li>自己評価カード</li> <li>相互評価カード</li> <li>コンピュータ</li> <li>教材提示装置</li> <li>拡大教材の段階標本</li> </ul>
まとめ	評価          本時の まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りカードを記入する（学んだことをどのように生活に生かすことができるかをまとめる）</li> <li>・片付けをする</li> <li>・次時は、自分の作品にボタンを付ける作業であることを知る</li> <li>・次時の作品完成に向け課題のある生徒はアドバイスカードを受け取る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>評価 振り返りカードの記入状況</b></li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>生活に生かすことの具体的な記述がない生徒には板書や評価カードの内容を、再度確認するよう助言する</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活に生かす視点で優れたまとめをした生徒に内容を発表させる</li> <li>・次時では、本時に習得した知識や技術を工夫・応用するよう伝え、次時の作品完成に向け意欲を高める</li> <li>・アドバイスカードを渡された生徒は、次時の初めに試し作りの再チャレンジをするので、課題克服に努めるよう励ます</li> <li>・振り返りカードを提出させる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>振り返りカード</li> <li>アドバイスカード</li> </ul>

## 考察

### 1 題材について

題材として、「パッチワークでつくるコースター」を開発した。この題材は、短時間で製作することができ、衣服の手入れと補修、衣服の再利用、個性を生かす衣服の着用(配色)、布の特性など、学習した知識や技術を実践を通して習得する総合的な課題であり、小学校の指導内容とも関連を図っている。また、ミシン縫いを取り扱うことや、大きさ・デザインによって設定時間も自由に変えることができる。さらに、「家族へのプレゼント」を想定したもののづくりで、製作に取り組む動機付けの工夫を行っている。このような題材の工夫により、生徒は製作意欲が増し、多くの生徒が完成まで粘り強く作品製作に取り組み、完成の喜びを味わわせることができた。

#### 「パッチワークでつくるコースター」の製作について (生徒用プリントから抜粋)

##### 1 材料と用具

- (1) 材料: 8センチ角の布4枚、12センチ角の布1枚、12センチ角の中綿1枚、6センチ角の厚紙1枚
- (2) 用具: チャコペンシル(鉛筆でもよい) 待ち針、キルト針、キルト糸、糸切はさみ、下絵ペン、針クッション、裁縫定規

##### 2 作業手順

- (1) 8センチ角の布4枚を、配色を考えて用意する (2) 6センチ角の厚紙を用意する
- (3) 布の中央に厚紙を置き、しるし付けをする (4) 2枚の布を中表にし、両端を待ち針で止め、なみ縫いをする
- (5) 残りの2枚も同様にする

- (6) (4)・(5)の2枚の布を中表にし、縫い代を互い違いに倒して待ち針で止め、なみ縫いをし、フォーパッチを作る
- (7) 12センチ角の布と中綿を用意し、中綿の上に布の表を上にして置き、最後にフォーパッチした布の裏を上にしてのせ、3枚の布を一緒にしるしどおりに縫い、3cmだけ開き口を残す
- (8) 角の縫い代を切り落して裏返し、開き口をまつり縫いする

\*作業(7)(8)の発展的な課題...(7) 14センチ角の布と12センチ角の中綿を用意し、14センチ角の布の裏を上にして置き、その上に中綿をのせ、最後にフォーパッチした布の表を上にしてのせ、3枚の布を一緒に十字に荒くしつけ縫いする

- (8) 周りを三つ折りにし、まつり縫いする
- (9) 下絵ペンで図案を描き、落としキルトをする。(円やイニシャル・キャラクター等でもよい)
- (10) 飾りボタンとサテンリボンを用意し、パッチワークの隅に、紐を輪にしてボタンで留め、使用後の濡れたコースターを干せるようにする



<フォーパッチ>周りをなみ縫い処理  
まるく落としキルトをした例



<チューリップ>周りをまつり縫い処理  
縫い目に沿って落としキルトをした例

## 2 指導方法について

本時の課題がはっきりわかるように、授業の最初から本時のねらいを書いた紙を黒板に貼っておくことで、生徒が学習内容を明確にして授業の臨むことができるよう工夫をした。また、教材提示装置、コンピュータの機器や拡大見本、段階標本等の教具を活用し、作業内容が短時間で能率よく理解できるようにした。さらに、道具を一括して保管したり、袋を用いた作品の収納を行ったりして、作業の時間を最大限に保証するよう配慮した。そして、個々の生徒への学習状況を見とり、次時の作品製作に取り組む上で課題がある生徒には、個々の生徒のつまずきに合わせたアドバイスカードを授業の終わりに渡した。アドバイスカードには、「課題のあった作業を次時までには練習し、技能を修得してくる」という家庭学習の課題が書かれている。課題を与えられた生徒は、アドバイスカードの課題に意欲的に取り組み技能を身に付け、次時の「飾りボタンの取り付け」に臨んだ。その結果、多くの生徒がよい作品を仕上げ、完成の喜びを味わうことができた。

### < アドバイスカードの例 >

さんへ  
次回までに、落ち着いて、正しくボタンに糸をかけられるように練習をしよう  
先生より

さんへ  
次回までに、糸足を固くしっかり巻けるように練習をしよう  
先生より

さんへ  
次回までに、(玉結び)など基本的なことを確実にできるように練習をしよう  
先生より



< ボタン付け作業の様子 >

### < 機器・教具の活用 >



### 3 評価について

#### (1) 自己評価・相互評価カードの活用

試し作り の作業後、ボタン付けの細かなポイントを評価項目に設定した評価カードを活用し、作業の状況を振り返らせた。自己評価を行った後、自分の技能を客観的に把握できるように他の生徒のボタン付けの状況も評価(相互評価)させた。評価は、ボタン付けのポイントをA B Cで評価し、Bはボタン付けに求められる「おおむね満足できる」状況である。

Bは「おおむね満足できる」状況

ボタン付けのポイントを具体的な図で表し、これを参考に自己評価・相互評価を行う

### 自己評価と相互評価<ボタン付け>

下の図を確認しながら、自分の作品の自己評価(左表)をしてみよう  
下の図を確認しながら、隣に座っている人の作品の相互評価(右表)をしてみよう

<自己評価>  
あてはまる記号に をつけなさい

評価項目
玉結びと玉止めが、布についている A : どちらもできている B : どちらか一方できている C : どちらもできていない
穴に3~4回糸がかけてある A : 美しく糸がかけられている B : 3~4回糸がかけてある C : 糸かけができていない
糸足が固くまけている A : ゆるみなくきれいである B : 糸足が固くまけている C : 糸足が巻けていない
布の厚さ分だけボタンがういている A : しっかりしていてかけやすい <b>B : 布の厚さ分だけういている</b> C : 適度なうきがない

<相互評価>(ペアで行う)  
あてはまる記号に をつけなさい

評価項目
玉結びと玉止めが、布についている A : どちらもできている B : どちらか一方できている C : どちらもできていない
穴に3~4回糸がかけてある A : 美しく糸がかけられている B : 3~4回糸がかけてある C : 糸かけができていない
糸足が固くまけている A : ゆるみなくきれいである B : 糸足が固くまけている C : 糸足が巻けていない
布の厚さ分だけボタンがういている A : しっかりしていてかけやすい B : 布の厚さ分だけういている C : 適度なうきがない



**2年組 番氏名**

<本時で使用した自己評価・相互評価カード>



自己評価・相互評価の活用により、自己の技能の状況を客観的に判断できるようになり、個々の生徒の課題へ取り組む意欲や自己の目標レベルが高まった。また、生徒同士の教え合いの活動も充実し、他の生徒と協力して作業に取り組むことができた。

<自己評価・相互評価カード記入の様子>

(2) 振り返りカードの活用

**振り返りカード<ボタン付け>**

あてはまる記号に をつけなさい

授業の自己評価項目
大きな声であいさつできた
元気に返事ができた
玉結びと玉止めが、布についている A：どちらもできている B：どちらか一方できている C：どちらもできていない
穴に3～4回糸がかけてある A：美しく糸がかけられている B：3～4回糸がかけてある C：糸かけができていない
糸足が固くまけている A：ゆるみなくきれいだである B：糸足が固くまけている C：糸足が巻けていない
布の厚さ分だけボタンがういている A：しっかりしていてかけやすい B：布の厚さ分だけういている C：適度なうきがない
ボタンが布についている A：2個以上ついていて B：ボタンが布についている C：時間内にボタンをつけることができない
作業を真面目に取り組んだ
先生や友達の話がしっかり聞けた

次回の作品作りでの、自分の課題をどのように立てたか記入しなさい。

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

(例) 毎日1個、ボタン付けをする。  
玉止めの練習を10回する。

授業で学んだことを、どのように生活で生かそうと考えているか記入しなさい。

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_



試し作り の作業の後、振り返りカードで授業の取り組み状況の自己評価を行った。自己評価により、生徒は自己の学習状況を把握し、次時の学習活動への意欲を高めることができた。

また、教師が評価のポイントを示してそれに基づき生徒が自己評価をすることで、教師の評価と生徒の評価が同じ観点で行えるようになり、より適切な自己の課題を生徒にもたせることができるようになった。

さらに、努力を要する生徒の把握に効果があり、振り返りカードにより個々の課題を見付け、生徒一人一人に適切な指導を行うことができた。

< 本時で使用した振り返りカード >

< 振り返りカードの記入から >

次回の作品作りでの、自分の課題をどのように立てたか記入しなさい。

もう少し糸足を固く巻くようにしようと思った。玉結びがうまくできないので練習する。玉止めをしっかり布につけられるようにする。毎日、玉止めの練習を10回する。今後、というか今日にでも家で練習しようと思う。

次回は、針に糸を通すのをできるだけ速くできるように家で練習します。

新しい縫い方やボタンの付け方も覚えていきたい。

授業で学んだことを、どのように生活で生かそうと考えているか記入しなさい。

自分や家族の服などでとれかけているボタンなどを直そうと思いました。

服のボタンがはずれた時、今度は親にやってもらわず、自分でボタン付けをする。

もし、Yシャツのボタンが取れたら、自分で積極的にやろうと思う。

基本的なことはわかったので、今度は応用して自分でいろいろ手入れをしていこうと思う。

<b>事例 4</b>	住まいを清潔にしよう <b>住まいの汚れの落とし方</b>
-------------	----------------------------------

#### 題材設定の理由

住まいを清潔に保つことは、気持ちよく住むために大切な要素の一つである。最近は様々な洗剤や用具が販売されており、掃除・汚れ落としが簡単に行われるようになってきている。また、いわゆる「生活の知恵」を使った掃除方法も多く行われている。生徒の家庭生活に関する実態調査から、家庭での手伝いとして大掃除を手伝っている生徒は約8割以上と多いが、日々の家庭の掃除を役割分担され継続した仕事として習慣化している生徒は5割以下であるという実態が明らかになった。このような実態から、自分から洗剤や用具を選んだり、掃除の仕方を工夫するなど、自らの住生活を改善する知識や意欲が十分身につけていないのではないかと考えた。

そこで、便利な洗剤や用具のみでなく、「生活の知恵」も生かした様々な掃除方法を授業で体験させ快適な住環境を実感することで、住生活の視点から身近な生活の課題を見だし、その解決に向け、習得した知識や技術を生かそうとする態度が育つのではないかと考え、本題材を設定した。

#### 生活をよりよくしようとする能力と態度を育てる手だて

- 1 「きれいな環境は気持ちがいよこと」を実感させることで、実生活をきれいな環境に保つことにつなげ、実践を通して衛生面に気を付けようとする意欲を高める。
- 2 便利な洗剤や用具を使用するだけでなく、様々な掃除方法を工夫することによって汚れを落とすことを体験し、習得した知識と技術を日常の生活に生かすようにさせる。
- 3 ひどい汚れを落とすことの大変さを体験することにより、日常的なこまめな手入れが大切であることを知り、実生活で実践しようとする態度を育てる。

#### 本時の学習

##### 1 指導内容と評価規準

指導内容	評価規準	観 点				評価を判断する具体例 (Bおおむね満足できる)
		関	工	技	知	
<b>住まいの掃除</b> <b>・ 住まいの汚れの落とし方</b>	・ 計画に沿って、担当場所の掃除に取り組んでいる <b>(評価 )</b> ・ 汚れに応じて掃除の仕方を工夫できる <b>(評価 )</b>					・ 担当場所の汚れ落としの作業に意欲的に取り組んでいる ・ ワークシートに掃除の仕方の工夫についての記入ができています

## 2 展開

		生徒の学習活動	教師の指導・援助・評価 〔努力を要する生徒への援助〕	準備
展 開	導入 本時の 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・掃除計画の確認を行う</li> <li>・本時の学習内容を知る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・掃除を行う上での注意点を伝える</li> </ul>	ワークシート
	準備 汚れ落とし 評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習に必要な用具等を揃え、実習の準備を行う</li> <li>・グループごとに分かれ、掃除を行う ＜汚れ落としの作業内容・留意点＞</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ア 計画に沿って汚れ落としの作業を行う</p> <p>イ 最初に考えた方法のみでなく、汚れ方に応じた方法を工夫しながら行う</p> <p>ウ 洗剤の使用量をできるだけ抑え環境に配慮する</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価 個々の作業状況の観察 〔汚れ落としが、思うように進まない生徒には、汚れの種類を知らせ、適した方法や洗剤を考えさせる〕</li> <li>・安全に気を配り、机間指導しながら個々の生徒課題に対応する</li> </ul>	洗剤、用具
	片づけ 評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協力して後片付けをする</li> <li>・洗剤、用具の回収</li> <li>・掃除の仕方などで工夫したこと等をワークシートにまとめる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価 机間指導による記入状況の観察 〔記入できない生徒には、記入の進んでいるグループ内の生徒から学ぶよう助言する〕</li> </ul>	ワークシート
まとめ	本時のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全や環境に配慮して掃除ができたかなど振り返りカードにより、掃除への取り組み方を自己評価する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習のまとめをし、振り返りカードに記入するように指示する</li> </ul>	振り返りカード

### 考察

#### 1 題材の工夫

日常生活を営む上で掃除は欠かせないが、生徒の掃除に対する関心や意欲、技能には個人差がある。学期末ごとに実施される大掃除も同様で意欲に差がある。しかし、授業内の適切な掃除方法の実践を通し、「汚れが落ちる」「きれいになる」など成果が感じられると、一生懸命に取り組む生徒が多くなった。いろいろな方法で汚れ落としを工夫することにより、掃除が楽しいものであることを実感させることができる題材であった。日常生活の身近なことから環境を守ることの大切さを学び、できることから実践する態度を育てることができた。



## 2 ワークシートの活用

授業の後半で、作業の自己評価を3項目について行い、ワークシートに記入させた。授業で学習した汚れ落としの知識や技術を、実生活に生かそうという内容の記入が多くあった。

<自己評価の項目> 作業を行って、気づいたこと 工夫したこと 作業の感想

<生徒の記入から>

「気づいたこと」から

見えるところよりも見えないところの方がとても汚かった。

ほこりがコードにまで付いていて危ないと思った。

洗剤はすぐに拭き取るよりも、少し待って拭き取った方がいいと分かった。

洗剤も使ったけれど、ほとんど力で落としたり。

「工夫したこと」から

歯ブラシですみをこすり、洗剤付きプラタワシでガンコな汚れを落とし、手袋も手荒れを防ぐためのものと実感しました。

割りばしとペーパータオルで、はじっこをきれいにした。 初めに消しゴムで消してから、洗剤を使った。

すみの方は先生のアドバイスを受けて、割りばしをうまく使って汚れを落としたり。

「作業の感想」から

1回、はまると掃除は楽しくなりました。家の大掃除とかもこの経験を生かして、掃除したいと思いました。

きれいになってすっきりしました。思ったよりもきれいになって、これからは落書きしないでほしいと思った。

いろんな掃除方法があって、汚れに合った掃除のやり方があるんだなと思った。

ほこりを取るときに床に落ちてしまったのが反省です。汚れが取れたときはうれしく他も取りたいなと思いました。

もっと自分で掃除方法を考えて掃除したい！！

### 研究の成果と今後の課題

本研究は、研究主題を「実践的・体験的な学習活動を通して、生活をよりよくしようとする能力と態度を育てる指導と評価の工夫」とし、基礎・基本に重点をおいた研究を進め、生徒の生活体験の実態調査、指導計画・評価計画の作成、実践的・体験的な学習活動を中心とした授業実践、評価方法の工夫の研究を行ってきた。以下に研究の成果と課題をまとめる。

#### 1 研究の成果

##### (1) 評価の観点の焦点化

A(1)～(4)の各内容について、毎時間の評価の観点を焦点化させた指導計画・評価計画を作成した。また、授業のねらいや評価の観点を明確にした「振り返りカード」を活用し、自己評価や相互評価を充実させた。これらの工夫により、授業のねらいや内容を生徒が正しく把握し、課題を主体的にとらえることができるようになり、学習意欲の向上につながった。

また、評価の観点の焦点化は、教師にとって、今まで以上にきめ細かく生徒一人一人の評価をすることを可能にした。作業が苦手な授業に意欲的に取り組めない生徒や、授業のねらいと自己の課題を結び付けて考えることができない生徒を早期に把握し、適切な指導を行うことができた。なお、毎時間の評価の観点を焦点化することから起こる4つの観点を偏りは、A(1)～(4)の全体を見通して指導計画・評価計画を調整しながら作成することで解消した。

## (2) 実践的・体験的な学習活動を中心とした題材の工夫

実践的・体験的な学習活動の充実を目指し、A(1)～(4)の各内容について、生徒の学習意欲を喚起するよう、題材の工夫を行った。まず、各内容で製作、調理などの実習や実験、調査・研究など実践的・体験的な学習が中心となる指導計画を作成した。また、どの題材も生徒の生活実態を考慮して自己の生活の改善につながる課題を設定し、授業を通し自らの生活を振り返ることができるように工夫した。さらに、個々の事例では生徒の実態に合わせ、ゲストティーチャーの活用や小学校における指導内容と関連させたり、「家族へのプレゼント製作」といった学習の動機付けを工夫したりして、生徒の学習意欲を高める題材の工夫を行った。以上のような題材の工夫とともに、一人一人の学習状況を的確に把握し、きめ細かい指導を行う指導と評価方法の工夫により、生徒の作品製作の完成度が上がり、多くの生徒に仕事の楽しさや完成の喜びを味わわせることができた。

## (3) 学習内容を実生活に生かす指導と評価の工夫

研究を進めるにあたって行った実態調査の結果から、家庭生活の中で、生徒は家庭の仕事を体験はしているが、継続した仕事として習慣化するところまでにはいたっていないということがわかった。そこで実践的・体験的な学習活動を取り入れることにより生徒が生活をよりよくしようとする能力や態度が育つのではないかと考え、研究を進めた。研究の中で、生徒の生活の実態に応じた題材を工夫し、生徒が授業で学んだことを生活で生かすように意図的な発問をしたり、振り返りカードに記入させたりした。このような、実生活とのつながりを常に意識させ振り返らせる指導と評価の工夫により、自らの生活に対する課題意識が生まれ、授業で習得した知識や技術を生かし、自らの生活をよりよくしようとする能力や態度を育てることができた。

## 2 今後の課題

### (1) 自己の生活課題に結び付ける授業実践

生徒に課題意識をもたせ実生活に結び付けて考え、それを生かしていくために、実践的・体験的な学習活動は大切である。また、題材の工夫は生徒の意欲を喚起させるために必要である。本研究では実践的・体験的な学習を通し、自己評価や相互評価を繰り返すことにより意欲をもたせることはできるようになったが、さらに生徒が主体的に生活の課題を見つけ、生活に結びつけて考えるようにしていきたい。そのために、適切な自己評価をする能力が必要である。今後も、自己評価の項目や記入方法の工夫を行い、より一層、自己の生活が意識できる授業の創造に努めたい。

### (2) 各校の実態に合わせた評価の工夫

目標に準拠した評価を進めていく上で、各校で評価規準が作られている。本研究では、観点を焦点化することにより、1時間の授業で行う評価をわかりやすく明確にした。一つの学習活動をどの観点で評価するかは、全体の観点をバランスや授業者のねらいによって変えていく必要がある。今回作成した評価規準を基に、授業者は各自の授業に合わせた評価規準や評価方法を工夫していかなければならない。実践を通して、修正を加えていく視点が大切である。今後も引き続き授業実践を行いながら、評価規準やその手だてをよりよいものにし、評価を充実させるとともに学習指導の改善に努めていく。

平成15年度教育研究員研究報告書

東京都教育委員会印刷物登録  
平成15年度 第31号

平成16年1月21日

編集・発行 東京都教職員研修センター  
所在地 東京都目黒区目黒1-1-14  
電話番号 03-5434-1976

印刷会社名 勝田印刷株式会社